

PELS (会長エレクト ラーニング セミナー) 報告



会長エレクト 田守 正彦君

昨年10月からエレクト・幹事予定者研修が始まり、私自身まだ理解不足なところばかりですが、次年度2600地区ガバナーの想いを、ご報告申し上げます。

まず、2026-27年度の国際ロータリー会長、オンラインカ・ハキーム・ババラ氏はナイジェリアの方で、石油・ガスの供給会社と、管理職コーチングと組織業績アドバイザーグループの2社を経営されており、RI理事も歴任されています。

また、2600地区ガバナーエレクトの橋上信久さんは下伊那郡阿智村の橋上病院の理事長をされており、2024-25年度の下伊那地区ガバナー補佐をされました。

ババラ氏は「CREATE LASTING IMPACT」をテーマとし、ロータリーの活動が「成果」だけでなく持続可能なインパクトを生み出すことの重要性を強く訴えています。ロータリーは社会を変えるだけでなく、私たち一人ひとりの人生、価値観、家族、そしてキャリアに深い変化をもたらしてきました。困難な時期において、ロータリーが「居場所」として会員を支え、希望を与えてきたことが、世界中の体験談から語られています。

また、持続可能なインパクトの具体例として、南アフリカ・ナイズナでの幼児教育プロジェクトや、ナイジェリアでの保健プロジェクトが紹介されています。これらは短期的な成果にとどまらず、世代を超えて命を守り続ける取り組みであり、まさに未来に残る価値を生み出す活動です。さらに国際ロータリーは、2030年までにロータリアン125万人、ローターアクター12万5千人という大きな目標を掲げています。その達成には、私たち一人ひとりが「迎え入れる姿勢」を持ち、年齢や背景、価値観の違いを尊重し、多様性を受け入れることが欠かせません。多様性と包摂こそが、ロータリーの未来を切り拓く鍵であると訴えています。

そして、ババラ会長は「変化」と「インパクト」は異なると述べています。変化は始まりでありインパクトは持続しなければならない。従来の数値的成果を重視しつつも「グッドからベター、そしてベストへ」と

成長し続ける姿勢が求められています。今年度のテーマ「UNITE FOR GOOD」、次年度のテーマ「CREATE LASTING IMPACT」。この二つは別々のメッセージではなく同じ方向を向いた連続したメッセージであると私は考えています。団結は目的ではなく手段であり、力を合わせることで「良いこと」を行い、その成果を未来に残る価値へと進化させていく。その到達点こそがインパクトであります。と橋上エレクトは伝えてくれました。そして私たち第2600地区は「COME BACK TO SHINSHU」次世代に向けて魅力ある“ふるさと信州”の環境づくりを新たな発想で考え行動する、この想いを次年度の基調として掲げてまいります。

2600 地区戦略計画

1、より大きなインパクトをもたらす

- ・ポリオを根絶し、残された遺産を活用する
- ・ロータリーのプログラム及びロータリアンが提供する体験に重点を当てる
- ・活動成果を挙げ、それを測る能力を高める

2、参加者の基盤を広げる

- ・会員基盤と参加者の基盤を広げ、多様化する
- ・ロータリー参加の新しい道筋を作り出す
- ・ロータリーの開放性とアピール力を高める
- ・インパクトとブランドに対する認知を築く

3、参加者の積極的なかわりを促す

- ・クラブが会員の積極的参加を促せるよう支援する
- ・価値を提供するため、参加者中心のアプローチを開発する
- ・個人的/職業的なつながりを作る新たな機会を提供する
- ・リーダーシップ育成及びスキル研修の機会を提供する

4、適応力を高める

- ・研究と革新、およびリスクをいとわない文化を築く
- ・ガバナンス、構造、プロセスを合理化する
- ・意思決定における多様な視点を助長するために、ガバナンスを見直す

今の10代の子どもたちは20年後には30代となり、地域の中心を担う世代になります。私たちロータリアンの知識と経験を生かし、未来の信州をより魅力ある地域へと育てていくことが、次世代の人材を地元へ根づかせ、

